

NEWSLETTER Vol.9



- 市内の小中学校施設は、建設から30年以上経たものが全体のほぼ9割を占め、その中でも古い校舎は建て替えの時期が近付いている状況にあります。
- 本市では、未来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく自立した人間として育つよう、これからの学校施設のあり方について「各務原市学校建替基本方針策定委員会」を設立し、調査・審議を進めています。
- ここでは、委員会の会議内容を紹介していきます。

1. 第9回各務原市学校建替基本方針策定委員会を開催しました。

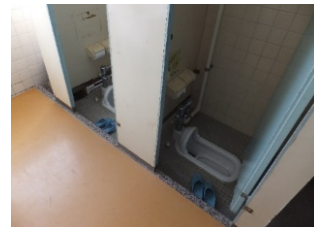
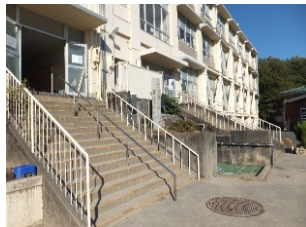
令和5年12月22日（金）午後1時30分から第9回各務原市学校建替基本方針策定委員会（以下、委員会といいます。）を各務原市産業文化センターで開催しました。

2. トイレ・バリアフリー、配慮を要する子の空間について話し合いました。

■トイレ・バリアフリーについて

これからの学校施設には、子どもたちにとってより使いやすく、居心地が良いトイレ環境が求められます。多様な利用者への配慮や災害時の利用等、学校施設のトイレに求められる役割が、年々拡大していることも踏まえて検討しました。

学校施設全体としてのバリアフリーやユニバーサルデザインの必要性についても検討しました。



※市内小中学校の急な階段の例(左)とトイレの例(右)

■配慮を要する子の空間について

子どもたちが多様化し、個別最適な学びの実現が求められる中、学校施設も柔軟に対応できるような環境整備が必要になります。多様な特性を持つ子どもたちに柔軟に対応できる学校施設について検討しました。

3. 第9回委員会で出された主な意見を紹介します。

■トイレ・バリアフリーについて

- ・トイレが保健室の中や近くにあれば、保健室を利用する様々な子にとってありがたい。
- ・安全等の観点からトイレの上部に隙間が空いている場合が多いが、いたずらの誘因となっていることがある。
- ・トイレの洋式化には賛成だが、子どもたちの和式トイレの経験が少なくなることで生じる課題もあると思う。
- ・小学校では低学年は男子トイレでも洋式の個室に入り、休憩時にはトイレが混雑する。男子用小便器が不要になる可能性もある。
- ・トイレは、学校でも家でもプライベートな空間となっているので、最低限そういった空間の確保が必要だと思う。
- ・もう少し広くなっても良いかもしれない。特に中学校はトイレが生徒のたまり場になることが多く、問題に発展する場合もあるので、明るく、広くすることで改善策となれば良い。
- ・トランスジェンダーやインクルーシブの視点から着替えなどの課題もある。事情を抱えている子どもの目線で学校のシーンごとに検討する必要もあると思う。
- ・校内の案内やサインについて、外国籍の児童生徒への配慮も必要だと思う。
- ・災害時を考えると、1階におけるバリアフリーについては多面的に想定して計画することが必要だと思う。

■配慮を要する子の空間について

- ・パニックになった場合、教室から離れてクールダウンした方が効果はあると思うが、一人ひとりで実態は違う。
- ・セルフコントロールできる生徒は自分で教室を出てクールダウンしている。
- ・クールダウン用に作りつけの空間を準備したとして、実際に使われるかはわからない。
- ・不登校の子といっても一人ひとりの状況は様々で、学校に登校することはできるが、所属する教室に入りづらい子もいれば、学校への登校自体に抵抗を感じる子もいる。学校敷地内外を問わず、子ども自身が状況に応じて自由に選択できるような多様な場所が必要だと思う。

※委員会の日程は、市のホームページに掲載します。2か月に1回の開催予定です。

【お問合せ先】各務原市役所 教育委員会事務局学校施設課 施設整備係

TEL : 058-383-1814 (直通) FAX : 058-389-0218

E-mail : gakkoshisetsu@city.kakamigahara.gifu.jp